

製本のススメ

Vol. 205

残暑厳しい日々ですが それでも真夏の雰囲気は無くなってきたようです。
これからが台風シーズン 毎年大きな災害が続きますので、今年はそうならない事を願いたいですね。

今回は**トンボと余白**の話し

意外と皆さんが間違っって認識している事の中に「余白」の考え方が有ります。製本加工は基本的に**外トンボよりもさらに外側の余白部分で加工を進めている**のです。むろん**トンボは製品の設計図です**ので様々な工程での**不可欠で重要な指針**ですが 実際の工程では**印刷でのクワエ同様に余白部分が必要な**のです。余白が取れないような用紙での印刷物はひとまず論外として 余白部分の役割についてお話ししましょう。**加工により「無線綴じ」「中綴じ」「その他」と余白の意味と用途が変わります**。主に軽印刷で発展してきた多摩地区界限ではこの余白が軽んじられている傾向が強く 刷り本を持ち込んだ時点でこの印刷では出来ないと言われた経験のある方もいるのではないのでしょうか？その為に（失敗を恐れて）製版から印刷製本をまとめて外注される方も多いかと思います。その一番の原因は**「余白のルールがわかっていない」**ためではないのでしょうか。これが解れば（暇な時期なのに）外注印刷を依頼せずにすみ、国内どこの製本会社へ出しても、スムーズに加工が進みます。この余白部分をどのように確保していくかで、短納期に対応し安価で加工が進められるかが決まると言っても過言ではありません。

最近ではコピーの性能もあがり規格正寸用紙に綺麗にプリントできるようになりました。しかし製本加工に必要な余白部分が確保できないため出来上がりの本は規格サイズよりも小さな本になってしまいます。また仕上がりの品質をある程度確保するために **普段以上の手間が掛かり割高な加工賃にならざるを得ません**。

今回は余白説明の第一弾として加工工程数の少ない「中綴じ」加工から説明を始めましょう。



Tea break

暑さ寒さも彼岸までと言われていますが、彼岸とはいつ？と思う方も多くなりました。春は春分の日を挟んで前後約 3 日間ずつの一週間 秋は秋分の日を挟んで約一週間です。ちなみに春は「ぼた餅」秋は「おはぎ」呼び名が違いますが同じものです。

弊社 HP は www.isekiseihon.com

facebook は 「井関製本の日々」

by (株) 井関製本